

第4章 先願意匠の一部と同一又は類似の後願意匠の保護除外

24 関連条文

意匠法

第三条の二 意匠登録出願に係る意匠が、当該意匠登録出願の日前の他の意匠登録出願であつて当該意匠登録出願後に第二十条第三項又は第六十六条第三項の規定により意匠公報に掲載されたもの（以下この条において「先の意匠登録出願」という。）の願書の記載及び願書に添付した図面、写真、ひな形又は見本に現された意匠の一部と同一又は類似であるときは、その意匠については、前条第一項の規定にかかわらず、意匠登録を受けることができない。ただし、当該意匠登録出願の出願人と先の意匠登録出願の出願人とが同一の者であつて、第二十条第三項の規定により先の意匠登録出願が掲載された意匠公報（同条第四項の規定により同条第三項第四号に掲げる事項が掲載されたものを除く。）の発行の日前に当該意匠登録出願があつたときは、この限りでない。

24.1 意匠法第3条の2の規定

意匠法第3条の2の規定は、先願の意匠の一部がほとんどそのまま後願の意匠として意匠登録出願されたときのように、後願の意匠が何ら新しい意匠の創作と認められない場合は、意匠登録を受けることができない旨規定したものである。ただし、先願の出願人と同一の出願人による意匠登録出願が、先願の意匠登録に係る意匠公報（秘密にすることを請求した意匠に係る意匠公報であつて、願書の記載及び願書に添付した図面等の内容が掲載されたものを除く。）の発行の日前までに登録された場合には、この規定による拒絶の理由にはあたらないとしている。

24.1.1 意匠法第3条の2本文の規定の適用の基礎となる意匠公報について

意匠法第3条の2本文の規定の適用の基礎となる意匠公報は、意匠法第3条の2の規定の適用の対象となる意匠登録出願の出願日前に意匠登録出願された意匠について、その対象となる意匠登録出願の出願後に発行された以下のいずれかの意匠公報である。

- (1) 意匠法第20条第3項の規定に基づく意匠公報（登録意匠公報）
- (2) 意匠法第66条第3項の規定に基づく意匠公報（同日競願に係る協議不成立又は不能の場合の拒絶確定出願を公示する公報）

24.1.2 願書の記載及び願書に添付した図面、写真、ひな形又は見本に現された意匠について

意匠法第3条の2に規定する意匠公報に掲載されたものの願書の記載及び願書に添付した図面、写真、ひな形又は見本に現された意匠とは、具体的に、意匠公報に掲載されたもののうち、先願の意匠登録出願人が創作した意匠、すなわち、先願の意匠登録出願人によって、願書の「意匠に係る物品」の欄に記

載された物品の区分に属する物品の形態として開示された意匠（以下「先願に係る意匠として開示された意匠」という。）である。

よって、意匠の理解を助けるために必要があるときに加える使用状態を示した図その他の参考図の中に記載されている先願に係る意匠として開示された意匠以外のものは、意匠法第3条の2の規定の適用の基礎となる資料とはしない。

これは、意匠の理解を助けるために必要があるときに加える使用状態を示した図その他の参考図において、先願に係る意匠として開示された意匠以外の意匠について、要旨の変更とならない範囲において補正がなされた場合、先願に係る意匠として開示された意匠以外のものの記載の内容は、審査、審判又は再審に係属している間に変動する可能性があり、このような不安定なものに基づいて後願を排除することは後願の意匠登録出願人に不利益となること、又先願に係る意匠として開示された意匠の理解を助けるためだけに説明的に加えられたものに創作の価値を認めて後願を排除することは意匠法第3条の2の規定の趣旨に反することから、上記のように取り扱うこととする。

24.1.3 先願に係る意匠として開示された意匠を特定するための図

24.1.3.1 全体意匠の意匠登録出願の場合

立体的なもの場合は、正投影図法により同一縮尺で作成された正面図、背面図、左側面図、右側面図、平面図及び底面図、又はそれらと置き換え可能な図（以下「一組の図面」という。）が、先願に係る意匠として開示された意匠を特定するための図となる。

平面的なもの場合は、同一縮尺で作成された表面図及び裏面図（以下立体的な意匠の場合と同様に「一組の図面」という。）が、先願に係る意匠として開示された意匠を特定するための図となる。

また、一組の図面だけでは意匠登録出願に係る意匠を十分表現できないときに加える、展開図、断面図、切断部端面図、拡大図、斜視図、画像図その他必要な図（以下「その他必要な図」という。）も、先願に係る意匠として開示された意匠を特定するための図となる。

24.1.3.2 部分意匠の意匠登録出願の場合

部分意匠の意匠登録出願の場合は、「意匠登録を受けようとする部分」と「その他の部分」を含む、部分意匠の意匠に係る物品全体の形態を表している一組の図面と、その他必要な図が、先願に係る意匠として開示された意匠を特定するための図となる。

24.1.3.3 組物の意匠の意匠登録出願の場合

組物の意匠の意匠登録出願の場合は、組物を構成する物品（以下「構成物品」という。）に係る意匠についてのそれぞれの一組の図面、また構成物品と同時に使用されるものであり、かつ定められた構成物品に付随する範囲内の物品に係る意匠についてのそれぞれの一組の図面、あるいは構成物品を組み合わせた状態の一組の図面と、その他必要な図についても、先願に係る意匠として開示された意匠を特定するための図となる。

24.1.4 意匠の一部について

意匠の一部とは、先願に係る意匠として開示された意匠の外観の中に含まれた一つの閉じられた領域をいい、意匠の構成要素である形状、模様、色彩の一を観念的に分離したものについては、意匠の一部に該当するものとは取り扱わない。例えば、先願に係る意匠として開示された意匠が、物品の形状と模様の結合からなる意匠である場合には、その結合した状態の意匠全体における一部を指し、模様を除いた形状のみは意匠の一部に該当するものとは取り扱わない。

また、後願の全体意匠が、先願の部分意匠の「意匠登録を受けようとする部分」と「その他の部分」を含む、部分意匠の意匠に係る物品全体の形態を表したものである場合は、後願の意匠は、先願の意匠の一部に該当するものとは取り扱わない。

24.1.5 先願に係る意匠として開示された意匠の一部と後願の全体意匠との類否判断

意匠法第3条の2の規定の適用にあたっては、先願に係る意匠として開示された意匠の中に、原則的に、意匠法第3条の2の規定の対象となる後願の全体意匠の全体の形態が開示されていること（先願に係る意匠として開示された意匠の中に、意匠法第3条の2の規定の対象となる後願の全体意匠の全体の形態が開示されていない場合であっても、対比可能な程度に十分に表されている場合を含む。第2部「意匠登録の要件」第2章「新規性」22.1.2.6「刊行物に記載された意匠について」参照）が必要である。

先願に係る意匠として開示された意匠と後願の全体意匠とが、①先願に係る意匠として開示された意匠が全体意匠であるか部分意匠であるか、②先願に係る意匠として開示された意匠の意匠に係る物品と後願の全体意匠の意匠に係る物品が同一、類似又は非類似のいずれであるかを問わず、先願に係る意匠として開示された意匠の中の後願の全体意匠に相当する一部と、後願の全体意匠の意匠に係る物品との用途及び機能が同一又は類似であって、それぞれの形態が同一又は類似である場合、後願の全体意匠と先願に係る意匠として開示された意匠の中の後願の全体意匠に相当する一部とは類似する。

24.1.6 意匠法第3条の2ただし書の規定の適用の判断

意匠法第3条の2本文の規定により意匠登録を受けることができない出願であっても、以下の要件をいずれも満たす場合は、同条ただし書の規定により、拒絶の理由に該当しない。

24.1.6.1 意匠登録出願の出願人と先の意匠登録出願の出願人とが同一の者であること

意匠登録出願の出願人と先の意匠登録出願の出願人とが同一の者であるか否かの判断は、当該適用の判断時、すなわち、査定 of 謄本又は拒絶の理由の通知書の送達時における、それぞれの願書の意匠登録出願人の記載に基づいて行う。したがって、当該適用の判断時以外の時における出願人の異同及び意匠登録出願の出願人と先の意匠登録出願に係る意匠権者との異同については、当該適用の判断において考慮しない。

なお、共同出願に係る場合における「同一の者」は、全ての出願人が一致することをいう。

24.1.6.2 第20条第3項の規定により先の意匠登録出願が掲載された意匠公報（同条第4項の規定により同条第3項第4号に掲げる事項が掲載されたものを除く。）の発行の日前に当該意匠登録出願があったこと

先の意匠登録出願の意匠登録に係る意匠公報（秘密にすることを請求した意匠に係る意匠公報であって、願書の記載及び願書に添付した図面等の内容が掲載されたものを除く。）の発行の日前に当該意匠登録出願がなされていることを要する。

※ この意匠公報には、国際意匠登録出願^(注)の場合における国際公表^(注)の国際意匠公報は含まれないが、当該国際公表された国際意匠公報に掲載された意匠は、意匠法第3条第1項第2号に規定する意匠（日本国内又は外国において、頒布された刊行物に記載された意匠又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となつた意匠）に該当することに注意を要する。

(注)

「国際意匠登録出願」及び「国際公表」については、第11部「国際意匠登録出願」を参照されたい。以下同じ。

24.1.7 意匠法第3条の2の規定の適用に関する時期的要件

意匠法第3条の2の規定は、先願の意匠登録出願の出願日後から、その意匠登録出願に係る意匠公報（登録意匠公報、同日競願に係る協議不成立又は

不能の場合の拒絶確定出願を公示する公報)の発行日(同日を含む。)までに
出願された意匠登録出願(ただし書の規定を適用するものを除く。)に適用す
る。

なお、先願の意匠登録出願に係る意匠公報発行の時以降に意匠登録出願さ
れたことが明らかな意匠登録出願に対しては、意匠法第3条第1項第2号又
は第3号の規定を適用する。

24.1.7.1 意匠登録出願の分割、出願の変更及び補正後の意匠についての新出 願の意匠法第3条の2の規定の判断の基準日

意匠法第10条の2第1項の規定による意匠登録出願の分割、意
匠法第13条第1項又は第2項の規定による特許出願又は実用新案
登録出願から意匠登録出願への変更あるいは意匠法第17条の3の
規定による補正の却下の決定があった補正後の意匠についての新た
な意匠登録出願において、手続が適法に行われた場合、これらの意匠
登録出願はもとの出願の時あるいは手続補正書を提出した時にした
ものとみなされる。

ただし、意匠法第3条の2の規定は、意匠登録出願の日単位で判
断することから、分割による新たな意匠登録出願、変更による新たな
意匠登録出願及び補正の却下の決定があった補正後の意匠について
の新たな意匠登録出願については、遡及が認められたもとの出願の出
願日あるいは手続補正書の提出日を判断の基準日とする。

24.1.7.2 パリ条約による優先権等の主張を伴う意匠登録出願の意匠法第3 条の2の規定の判断の基準日

意匠法第3条の2の規定の適用にあたっては、その主張が適正で
あるとき、第一国の出願日を判断の基準日とする。

24.1.7.3 意匠法第3条の2の規定により拒絶の理由を通知する時期

意匠法第3条の2の規定による拒絶の理由は、先願の意匠に係る
意匠公報(登録意匠公報、同日競願に係る協議不成立又は不能の場合
の拒絶確定出願を公示する公報)の発行日後に通知する。

なお、秘密にすることを請求した当該意匠に係る意匠公報の場合
は、指定された秘密請求期間の経過後に、意匠登録出願について掲載
すべき事項のすべてが掲載された意匠公報の発行日後に拒絶の理由
を通知をすることとし、それまでは待ち通知を発する。

24.1.7.4 国際意匠登録出願の意匠法第3条の2の規定の判断の基準日

国際意匠登録出願についての意匠法第3条の2の規定の適用にあ
たっては、意匠法第60条の6第1項の規定により意匠登録出願がさ
れたとみなされる国際登録の日(注)を判断の基準日とする(ただし、
パリ条約による優先権等の主張が適正になされている場合を除く。)

(注)

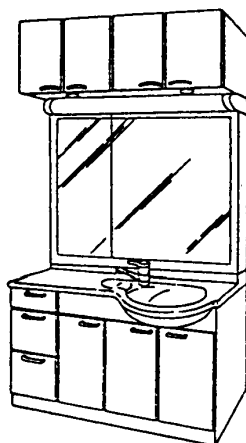
「国際登録」及び「国際登録の日」については、第11部「国際意匠登録出願」を参照されたい。以下同じ。

24.2 意匠法第3条の2の規定に該当する全体意匠の意匠登録出願の例

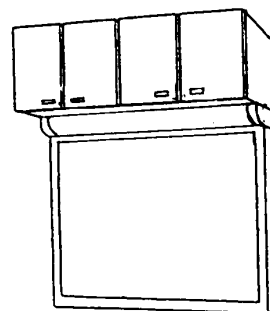
- ①先願が全体意匠の意匠登録出願のとき、当該先願に係る意匠として開示された意匠の一部と後願の全体意匠との形態、及び、用途及び機能とが同一又は類似である場合

【適用できる事例1】

先願に係る意匠として開示された意匠
「洗面化粧台」

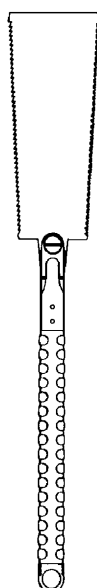


全体意匠の意匠登録出願
「洗面化粧棚」

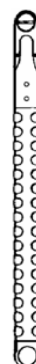


【適用できる事例2】

先願に係る意匠として開示された意匠
「のこぎり」



全体意匠の意匠登録出願
「のこぎり用柄」

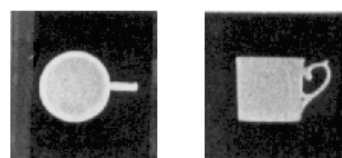
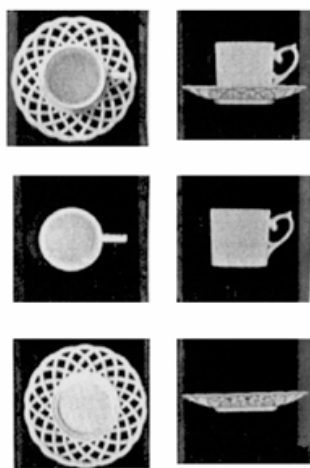


②先願が分離できる物品に係る意匠登録出願のとき、当該先願に係る意匠として開示された意匠の一部である分離した一の意匠と後願の全体意匠との形態、及び、用途及び機能とが同一又は類似である場合

【適用できる事例】

先願に係る意匠として開示された意匠
「コーヒーわん及び受け皿」

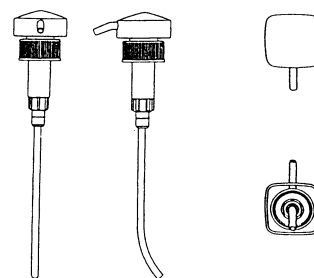
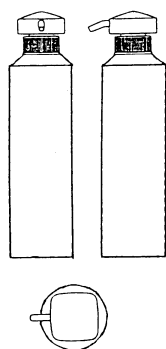
全体意匠の意匠登録出願
「コーヒーわん」



【適用できない事例】

先願に係る意匠として開示された意匠
「噴霧器」

全体意匠の意匠登録出願
「噴霧器の押し出しポンプ」



(補足説明)

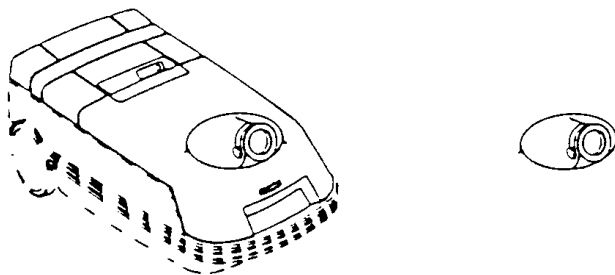
後願の全体意匠の全体の形態が、先願に係る意匠として開示された意匠の中に
対比可能な程度に十分表れていない。

③先願が部分意匠の意匠登録出願のとき、当該先願に係る意匠として開示された意匠の一部と後願の全体意匠との形態、及び、用途及び機能とが同一又は類似である場合

【適用できる事例1】

先願に係る意匠として開示された意匠
「電気掃除機本体」

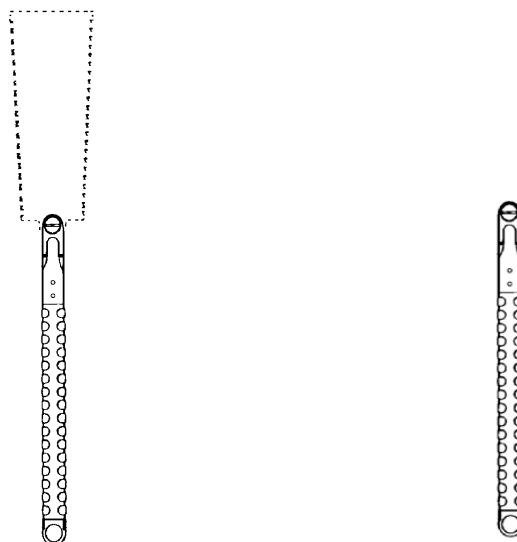
全体意匠の意匠登録出願
「電気掃除機用ホース取付口」



【適用できる事例2】

先願に係る意匠として開示された意匠
「のこぎり」

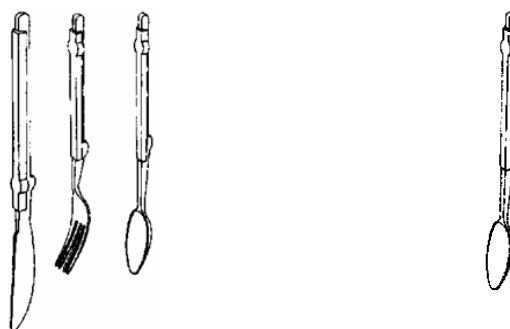
全体意匠の意匠登録出願
「のこぎり用柄」



- ④先願が組物の意匠の意匠登録出願のとき、当該先願に係る意匠として開示された意匠の中の一の構成物品に係る意匠と後願の全体意匠との形態、及び、用途及び機能とが同一又は類似である場合

【適用できる事例】

先願に係る意匠として開示された意匠 「一組の飲食用ナイフ、フォーク 及びスプーンセット」	全体意匠の意匠登録出願 「飲食用スプーン」
--	--------------------------



〔経過措置〕

改正法の附則

第二条 第一条の規定による改正後の意匠法（以下「新意匠法」という。）第二条第二項、第三条の二、第十条、第十四条、第十七条、第二十一条、第四十二条及び第四十八条の規定は、この法律の施行後にする意匠登録出願について適用し、この法律の施行前にした意匠登録出願については、なお従前の例による。

○改正法施行前の意匠登録出願に係る意匠の一部と同一又は類似の意匠についてされた改正法施行後の意匠登録出願に対する改正法の適用

改正法施行前の意匠登録出願に係る意匠の一部と同一又は類似の意匠についてされた改正法施行後の意匠登録出願に対しては、改正法が適用される。

○意匠登録出願の分割、出願の変更及び補正後の意匠についての新出願に係る出願に対する改正法の適用

意匠登録出願の分割、出願の変更及び補正後の意匠についての新出願に係る出願に対しては、意匠法第10条の2第2項（同法第13条第5項で準用する場合を含む。）又は同法第17条の3第1項の規定に基づき、遡及が認められたもとの出願の出願日あるいは手続補正書の提出日が改正法施行後である場合に、改正法が適用される。

○パリ条約による優先権等の主張を伴う意匠登録出願に対する改正法の適用
パリ条約による優先権等の主張を伴う意匠登録出願に対しては、パリ条約第4条Bの規定に基づき、日本国への出願日が改正法施行後である場合に、改正法が適用される。